

## トップ インタビュー

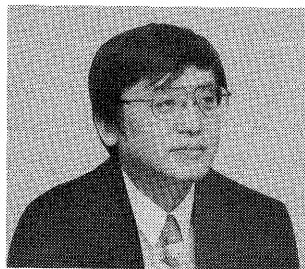
### 株式会社ニコンの情報システム戦略

本日は、今月号に「事例」を掲載していただいた株式会社ニコンの情報システム部ゼネラルマネージャに、情報戦略などについてお伺いした。

—早速ですが、御社の情報システム戦略についてお聞かせ下さい。

ニコンでは、ANGEL計画という情報システムのプロジェクトを進めています。このプロジェクトのコンセプトは、ニコンの事業に「有用」な情報を統合データベース(DB)で「一元管理」し、どこからでも「皆がアクセス」できるようにすることです。この3点のいずれが欠けてもだめなのです。

従来の情報システムは、業務を効率化することを目的としており、社長や重役から部長、課長、担当といった縦型の組織の構造をサポートしていました。しかし、この縦の構造は、情報の伝達に時間がかかり、また一カ所ラインが切れると、その下の多くの人に情報が伝わらなくなる問題がありました。



聞き手 川上 英  
情報処理学会編集委員

このような従来の組織構造に合わせて作られたシステムは、他のシステムと多くのインタフェースを持つことになります。

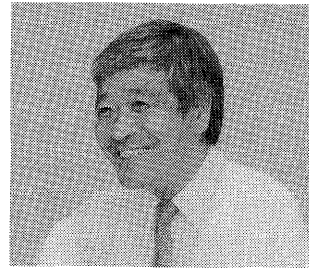
したがって、新しくシステムを開発すると、既存のシステムもこれとインタフェースをとるために、改修—これを保守と呼んでいます—しなければなりません。この保守が大変で、情報システム部門の仕事のうちの8割がこの保守です。

有用な情報を統合DBによって一元管理し、各部門システムは統合DBとだけインタフェースをとります。このように情報システムの構造をフラットにすることで、情報の伝達を早め、部門システムの障害の影響を最小限に留め、保守も簡単にします。これがANGEL計画でありニコンの情報システム戦略です。

—御社において情報システムはどのように位置付けられているのでしょうか。

米国の製造業が復活した理由の1つにコンカレントエンジニアリングがあります。これは、設計・開発部門、製造部門、マーケティング部門を一カ所に集め、お互いのコミュニケーションを緊密にすることで、マーケットニーズにあった製品を短い期間で開発できるようになったためだと言われています。しかし、日本の現状を考えると、円高のために製造は海外へのシフトを余儀なくされています。研究開発は、一流の技術者を集められる、たとえばシリコンバレーが最適でしょう。一方、マーケティングは、消費者の近くにいる必要があります。これでは、各部門をととも一カ所には集められません。

これらの部門が一カ所にいるのと同じようなコミュニケーションを可能にし、コンカレント



話し手 河合正治氏  
株式会社ニコン情報システム部  
ゼネラルマネージャ

エンジニアリングを実現するのが情報システムの役割であると考えています。

—最後に、私どもベンダに期待される役割は何か、お聞かせ下さい。

情報システム部門の役割は、情報システムのインフラの設計と、それに格納される情報自身に責任を持つ事になっていきます。また製品はオープン化し、どのベンダからでも手に入れます。

そこでハードウェアやソフトウェアのベンダには、我々の要求を満足させる最適な情報システムをオープンな製品を使って開発する技術力を期待しています。オープンなシステムコンポーネントをいかにユーザ要求を満足するようカスタマイズできるか、この実力が重要になってくるのではないのでしょうか。これがないようでは、我々のよきパートナーとはなれないでしょう。

本日はどうもありがとうございました。

(平成7年8月実施)

